

1. 中学入試の動向

「2023年度の首都圏中学入試を総括する」

安田教育研究所 安田 理 氏

2023年度の首都圏中学入試を総括する

安田教育研究所
安田 理

全体の状況

3模試とも受験者数は増と推定

どのくらいの人が中学受験をしているか、という数字は実は公的な機関はどこも出していない（東京都教育委員会の場合は、小学6年生がどのような学校種＜公立、国立、私立、公立中高一貫校＞に進学したかという数字を12月ごろに公表）。そこで、中学受験者数は、大規模な模試を行っている会社がそれぞれに推定して出している。

- 首都圏模試 前年の51100名から1500名増で52600名
- 日能研 前年の62400名から4100名増で66500名（公立中高一貫校を含む）
- 四谷大塚 前年の53500名から1200名増で54700名

史上最高の受験者数になっている。なぜこれほど増えているのだろうか。

9年連続受験者増の背景

- 従来からの「大学進学に有利」「恵まれた環境」
- 公立小学校時代の経験から「公立を回避したい」
- わが子は「内申点」が取れそうにない
- わが子を「非正規雇用」にしないために
- グローバル教育、ICT教育、探究……私立中高一貫教育の良さに気づく
- コロナ禍での公私の対応の差に気づく

などが挙げられるだろう。上4つは従来からで、下2つが近年の背景と言える。

男女別日程別出願者数ランキング

私立中学について男女別日程別出願者数を出してみた。

2月1日については、午後入試は別の欄を設けたが、埼玉、千葉、2日、3日については同一欄にし、午後入試については下線を付した。

■男子

1月中埼玉	出願者数	1月中千葉	出願者数	2月1日午前	出願者数
栄東 A ↑	5071	市川① ↑	1767	開成 ↑	1289
栄東 B →	2041	東邦大東邦前期 ↑	1395	麻布 ↓	918
立教新座① ↓	1760	渋谷幕張① ↑	1337	早稲田① ↑	830
栄東東大特待 ↑	1227	専大松戸① ↑	962	駒場東邦 ↑	611
大宮開成① ↑	1207	芝浦工大柏① ↓	712	本郷① ↑	603
開智先端① ↑	929	昭和秀英① ↑	663	海城① ↑	602
埼玉栄① ↓	822	芝浦工大柏②一	619	武蔵 ↓	601
大宮開成② ↑	796	専大松戸② ↑	618	慶應普通部 ↓	587
獨協埼玉① ↓	758	千葉日大一① ↑	523	芝① ↑	564
栄東東大 II ↑	676	麗澤① ↑	507	逗子開成① ↑	485

2月1日午後	出願者数	2月2日	出願者数	2月3日	出願者数
東京都市大付② ↑	1285	本郷② ↑	1385	浅野 ↓	1734
世田谷学園算数一	844	世田谷学園② ↑	1027	海城② ↑	1418
獨協② ↓	648	明大中野① ↓	886	早稲田② ↑	1391
巣鴨算数 ↑	606	栄光学園 ↑	816	成城② ↓	1056
国学院久我山 S T ① ↑	516	城北② ↑	810	慶應中等部 ↓	856
芝国際午後特待 N	436	聖光学院① ↑	740	東京都市大付③ N ↑	768
山手学院特待 ↑	434	日大豊山② ↓	671	日大豊山④ ↓	674
広尾学園② ↑	417	法政二①一	630	日大豊山③ ↓	620
東京農大一① ↓	406	高輪 B ↑	622	都市大等々力②特選 ↑	609
関東学院① B ↑	406	桐朋② ↑	597	逗子開成② ↑	463

<男女別内訳を出していない学校>

西武学園文理、細田学園、昭和学院、成田高校附属、ドルトン東京学園、八王子実践、法政大学、三田国際学園、明星

■女子

1月中埼玉	出願者数	1月中千葉	出願者数	2月1日午前	出願者数
栄東 A ↑	2809	市川① ↑	912	女子学院 ↓	700
浦和明の星① ↓	1987	東邦大東邦前期 ↑	871	桜蔭 ↑	629
淑徳与野① ↑	1771	国府台女子学院① ↑	856	吉祥女子① ↑	626
栄東 B ↑	1294	和洋国府台① ↑	667	鷗友学園女子① ↓	573
大宮開成① ↓	905	昭和秀英① ↑	660	フェリス女学院 ↓	450
埼玉栄① ↑	888	渋谷幕張① ↑	650	香蘭女学校 ↑	412
開智先端① ↑	707	専大松戸① ↓	601	雙葉 ↑	401
埼玉栄② ↑	592	麗澤① ↓	462	山脇学園 A ↑	376
獨協埼玉① ↓	577	専大松戸② ↑	431	共立女子 2/1 ↑	368
大宮開成② ↑	554	麗澤② ↓	379	立教女学院 ↑	353

2月1日午後	出願者数	2月2日	出願者数	2月3日	出願者数
横浜女学院 2/1 午後一	893	豊島岡女子学園① ↓	1060	横浜女学院 2/3 午後 ↑	1160
山脇英 AL・国・算 ↓	820	吉祥女子② ↑	1006	豊島岡女子学園② ↓	961
広尾学園② ↑	635	山脇学園 B ↓	787	鷗友学園女子② ↑	754
恵泉女学園① ↑	505	香蘭女学校② ↑	769	東洋英和女学院 B ↑	567
実践女子学園② ↓	445	洗足学園② ↓	707	恵泉女学園③ ↑	540
三輪田学園① 午後 ↑	440	共立女子 2/2 ↑	643	実践女子学園⑤ ↑	491
東京農大一① ↓	436	横浜女学院 2/3 午後 ↑	625	三輪田学園③ ↑	473
大妻中野② アド ↑	429	大妻② ↓	603	慶應中等部 ↓	448
湘南白百合算・国 ↑	423	恵泉女学園② ↑	574	学習院女子 B ↓	416
神奈川大附① ↓	329	青山学院 ↑	563	横浜共立学園 B ↓	384

■男子

3都県とも最難関校が伸ばしていることが特徴的。付属校の多くが減らしていることも2023年度の傾向。午後入試になると共学校が出てくるが、午前入試は2月2日の法政二①以外はすべて男子校である。

■女子

1日午前から通してみると、伝統女子校が大勢の出願者を集めたことがわかる。総出願者数になると、入試回数の多い近年共学化した新しいタイプの共学校が上位を占めるが、日程別に見ていくと難関女子校、伝統女子校が上位を占めることが見て取れる。

主な動向

●話題校に集まる（出願者数）

芝国際4327名、日本学園1322名、サレジアン国際世田谷963名、流通経済大学附属522名と、大きな変更があったところに集まるのが近年の顕著な動向。

●付属校はまだら模様

前年より出願者が増えた学校、減った学校を、増減の幅を無視して大胆に分けると下記の表になる。

大学	増加校	減少校
早稲田	早稲田	早稲田高等学院、早稲田実業
慶應義塾		慶應普通部、慶應中等部、慶應湘南藤沢
明治	日本学園	明大中野、明大中野八王子、明大明治
青山学院	青山学院、青学横浜英和	青学浦和ルーテル
立教	立教池袋、香蘭女学校、立教女学院	立教新座
中央	中央大附	中央大附横浜
法政	法政二	法政大学
学習院		学習院、学習院女子
日本	日大豊山女子、目黒日大、日大藤沢	日大豊山、日大一、日大二、日大三、日本大学、千葉日大一
東洋		東洋大京北

ではなぜ上の表のような付属校離れが起きたのだろうか。

- 難度の上昇にともなう競合校の変化
- 大学入学定員の厳格化の緩和
- 理工系に進ませたいと考える保護者の増加・・・MARCH系は社会科学系のイメージ
- 進学校が高大連携を結ぶケースの増加
- 10年間の教育費を考えるとキツイ

などが挙げられるだろう。

●地域別に見ると

- ・埼玉は東京よりが増・・・立教新座、淑徳与野、浦和実業学園、武南、西武台新座
- ・千葉は市川市・・・市川、昭和学院、和洋国府台
- ・東京は北部が軒並み増加・・・足立学園、本郷、開成、城北、京華、巣鴨、立教池袋、聖学院、京華女子、十文字、跡見学園、郁文館、駒込、淑徳、サレジアン国際、東京成徳大学、順天
- ・神奈川は湘南地区が増・・・逗子開成、栄光学園、湘南白百合、湘南学園、関東学院六浦横須賀学院、日大藤沢、アレセア湘南

●キリスト教系女子校

- ・特にカトリック系が好調・・・東京は6校のうち4校、神奈川は7校のうち5校が増

公立中高一貫校

都立中高一貫校の応募者は微減

学校名	募集人数	応募者数		応募倍率
		2023	2022	
桜修館中等教育学校	男80	357	334	5.4
	女80	507	493	
大泉高校附属	男80	323	345	4.6
	女80	411	391	
小石川中等教育学校	男80	356	346	4.8
	女80	389	366	
立川国際中等教育学校	男65	213	299	3.8
	女65	281	363	
白鷗高校附属	男68	307	288	4.6
	女68	439	418	
富士高校附属	男80	268	262	3.6
	女80	306	348	
三鷹中等教育学校	男80	404	455	5.8
	女80	520	489	
南多摩中等教育学校	男80	308	331	4.1
	女80	354	348	

武蔵高校附属	男 80	246	249	2.9
	女 80	225	246	
両国高校附属	男 80	393	399	4.8
	女 80	382	382	
九段中等教育学校区分 B	男 40	177	186	5.1
	女 40	230	262	

一般枠募集の応募人員の合計は、男子が3,175名（前年3,308名）、女子が3,814名（前年3,844名）で微減だった。例年より減少幅がかなり小さくなっている。桜修館中等教育学校、小石川中等教育学校、白鷗高校附属など区部は男女とも増加している。多摩は三鷹中等教育学校、南多摩中等教育学校的女子以外は減。

例年倍率が低い武蔵高校附属は3倍を切ってしまった。適性検査Ⅲまでであることが、多摩の受験生にとっては負担になっているのだろう。

3県は12校中8校が減

学校名	募集人数	応募者数		応募倍率
		2023	2022	
神奈川県立相模原中等教育学校	男女160	982	1062	6.1
神奈川県立平塚中等教育学校	男女160	737	772	4.6
川崎市立川崎高校附属	男女120	588	489	4.9
横浜市立南高校附属	男女160	865	353	5.4
			507	
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校 附属	男女80	467	290	5.8
			231	
千葉県立千葉	男女80	292	349	7.3
		278	251	7.0
千葉県立東葛飾	男女80	396	453	9.9
		397	412	9.9
千葉市立稲毛国際中等教育学校	男女160	851	858	5.3

埼玉県立伊奈学園	男女80	365	440	4.6
さいたま市立浦和	男40	307	291	7.7
	女40	333	333	8.3
さいたま市立大宮国際中等教育学校	男80	283	282	3.5
	女80	401	404	5.0
川口市立高校附属	男40	211	191	5.3
	女40	207	227	5.2

横浜市立は2023年度から男女合同定員になった。適性検査Ⅰは共通問題で、Ⅱは独自問題。